

そこに 学校があった

休廃校の歴史

大奈路小学校 (中)

平成以降に休廃校になった学校を中心に振り返ります。



完成した新校舎の落成を祝う（開校記念誌より）

小中合わせて300人おった！

1947(昭和22)年、新生大正町立大奈路小学校がスタートし、翌年に中学校が併設された。全国の例に漏れず、ここ大奈路でも戦後直ぐから徐々に児童数が増え、1952(昭和27)年辺りからその勢いが増していく。1959(昭和34)年の卒業生は38名である。この次の学年は18名だったものの、その次は37名、さらに36名と続く。それだけを見ても、当時の全校児童数の多さに驚くのだが、小学校を卒業した子どもたちは、併設された大奈路中学校の生徒として校内に残り、さらに近隣小学校の卒業生たちも大奈路中学校に入学してくるわけだから、校庭の手狭感は相当なものであった。「小中合わせて300人はおったからね」と、1965(昭和40)年度卒業生は語る。

「大活躍」する子どもたち

これだけの児童生徒数であるから、それはそれは賑やかで、運動会などの学校行事はもちろんだが、平素の学校生活の中でも、子どもたちは「大活躍」であった。

1962(昭和37)年度の卒業写真の左端に火の見櫓が写っている。周辺地域の減災を担う重要な施設で、古くからこの場所に建てられていた。最上部



火の見櫓（開校記念誌より）

には半鐘が吊り下げてあった。これが、わんぱく盛りの子どもの目の前にあるのである。勘の良い方はもうおわかりであろう。櫓に登るくらいならまだマシで、下から石を投げて鐘を鳴らそうとするなど、そんなことは日常茶飯事であった。「その度に先生から大目玉を喰らいました」と、今は好々爺となった、当時のわんぱく少年が言う。

ワクワク感に満ちた新校舎「入城」

そんなわんぱく少年たちをも震え上がらせることが起こる。1963(昭和38)年の大水害である。降り続く豪雨によって荒れ狂う濁流となった櫓原川を、上流で切り出された木材や倒木がどんどん流れてくる。その中の一本の巨木が、森林軌道の西ノ川側の橋脚に直撃。橋脚はその一撃で破壊された。4年生だった時に校舎からその瞬間を見たという方によれば「物凄い轟音だった」そうである。児童たちは、当時建設中だった鉄筋2階建の新校舎に避難したのだった。その新校舎は、水害があった年度内に完成し、新年度を待って、子どもたちは「正式に」ここに入った。「あの時」は不安の中での新校舎だったが、今度はワクワク感に満ちた「入城」であったという。



昭和38年の大水害によって
橋脚が破壊された軌道橋

新校舎ができて、手狭な校庭であることに変わりなく、時には学年ごとに日を分けて使うこともしばしばであった。「児童生徒数が多いことによる悩みがあった」ということも、大奈路小(中)学校の覚えておきたい歴史の一つである。

さて、学校プールができるのは、新校舎完成から10年後である。それまでは中津川と櫓原川の合流地点がプール代りであった。この学校プールができる5年前の1969(昭和44)年、下道分校が廃止になり、本校である大奈路小学校に統合。スクールバスの運行が始まる。また、その翌年、大正町内全校で完全給食が開始されるなど、着々と近代化が図られていくのだが、この頃から児童数の減少が顕著になっていく。(次回に続く)

町のうごき

(6月30日)	人	口	前月比		出生	死亡	転入	転出
男	6,893	-20		男	0	15	9	14
女	7,433	-17		女	1	16	12	14
計	14,326	-37		計	1	31	21	28
世帯数	7,764	-15		(6月中の届出)				

窪川地域 10,250人 大正地域 1,973人 十和地域 2,103人